

## 形成再建外科学分野

### A 欧文

#### A-a

1. Tsuda M, Yamada T, Mikoya T, Nakashima M, Minakami H, Kishino T, Kinoshita A, Niikawa N, Hirano A, Yoshiura K: A type of familial cleft of the soft palate maps to 2p24.2-2-p24.1 or 2p21-p12, *J Hum Genet*, 55(2): 124-126, 2010
2. Fujioka M, Baba H, Toda K, Hirano A: Two cases of retrobulbar meningioma excised by skull base approaches. *Rare tumors* 2010, 2:e60, 172-173, 2010
3. Matsuzawa N, Kondo S, Shimozato K, Nagao T, Nakano M, Tsuda M, Hirano A, Niikawa N, Yoshiura K: Two missense mutations of the IRF6 gene in two Japanese families with popliteal pterygium syndrome. *Am J Med Genet*. 152(9): 2262-7, 2010
4. Yano H, Suzuki Y, Yoshimoto H, Mimasu R, Hirano A: Linear-type orbital floor fracture with or without muscle involvement. *J Craniofac Surg* 21(4): 1072-1078, 2010
5. Akita S, Akino K, Hirano A, Ohtsuru A, Yamashita S: Non-cultured autologous adipose-derived stem cells therapy for chronic radiation injury. *Dec 1; 532704. Stem cells Int*, 2010
6. Akita S, Akino K, Yakabe A, Tanaka K, Anraku K, Yano H, Hirano A: Basic fibroblast growth factor is beneficial for post-operative color uniformity in split-thickness skin grafting. *Wound Repair Regen*, 18: 560-566, 2010.
7. Akita S, Akino K, Hirano A, Ohtsuru A, Yamashita S: Mesenchymal stem cell therapy for cutaneous radiation syndrome. *Health Physics*, 09: 858-862, 2010

#### A-b

1. Yoshimoto H, Akino K, Hirano A, Yamashita S, Ohtsuru A, Akita S: Efficacy of patients' own adipose-derived regenerative cells for chronic intractable radiation injuries. *The Journal of Wound Technology*, 10: 22-25, 2010.
2. Akita S: The Efficiency and benefit of combined use of artificial dermis with growth factor in clinical cases. *The Journal of Wound Technology*, 10: 6-9, 2010.

#### A-c

1. Akita S: Prevention of scar using bFGF Chapter 9: Color atlas of burn reconstructive surgery. Pp. 62-71, Eds. Hyakusoku H, Orgill DP, Teot L, Pribaz JJ, Ogawa R, Springer-Verlag, Berlin Heidelberg, 499 pages in total, 2010.
2. Akita S: Editorial, "Stem cells and growth factors", *Journal of Wound Technology*, Editor, Akita S, Editions MF, Paris, October, 2010, 51 page 3

### B 邦文

#### B-a

1. 平野明喜: 陳旧性顔面骨骨折治療の実際 *形成外科* 53: 1197-1206, 2010
2. 遠藤淑恵, 田中克己, 加治木智子, 平野明喜: 胸背動静脈を血管柄とした有茎組織移植による上肢組織欠損の再建 *形成外科* 53: 1121-1127, 2010
3. 田中克己, 平野明喜: 顔面・手部熱傷の初期治療 *PEPARS* 47: 1168-75, 2010
4. 北浦英樹, 藤村裕治, 吉松昌子, 江口俊子, 小原 悠, 佛坂齊社, 平野明喜, 吉田教明: 上顎左側側切歯欠損, 上下顎叢生, 正中離開を伴う片側性口唇口蓋裂症例 *九矯歯誌* 6: 89-96, 2010
5. 鈴木智貴, 荒尾宣昭, 鈴木弘之, 平野明喜: 第1第2鰓弓症候群に対して二段階に分けて外科的矯正治療を行った1症例 *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 26: 85-94, 2010
6. 田中克己, 平野明喜: 前頭筋を利用した眼瞼下垂症の治療 *形成外科* 53: 27-36, 2010
7. 田中克己, 平野明喜: 慢性期における下肢開放骨折の治療戦略 *PEPARS* 39:40-47, 2010
8. 田中克己: 特殊な熱傷 手・足の熱傷 *救急医学* 34:491-494, 2010
9. 田中克己, 中野 基, 平野明喜: 褥瘡の手術治療 *PEPARS* 41:53-61, 2010
10. 田中克己, 平野明喜: 手指熱傷患者の機能予後とその治療戦略 *形成外科* 53: 833-841, 2010
11. 田中克己: 合指(趾)症、多指(趾)症 *形成外科の治療指針 update2010* *形成外科* 53 増:S155 - S156, 2010
12. 田中克己: 合短指症 *形成外科の治療指針 update2010* *形成外科* 53 増:S157, 2010
13. 崎浜教之, 田中克己, 高橋晴雄: 側頭骨亜全摘症例における顔面神経・舌下神経吻合術 *Facial Nerve Research* 29:97-100, 2010
14. 木村 中, 館 正弘, 長瀬 敬, 島田賢一, 寺師浩人, 岡 博昭, 田中克己: 「褥瘡の手術適応の基準化と周術期管理方法の統一へ向けて(その1:坐骨部)」50施設のアンケート調査の結果報告 *日本褥瘡学会誌* 12:137-99140, 2010
15. 土居 満, 熊谷謙治, 富田雅人, 野崎義宏, 田中克己, 田川 努, 土谷智史, 林 徳眞吉, 進藤裕幸: 胸壁原発の悪性線維性組織球腫(Malignant Fibrous Histiocytoma)の一例 *整形外科と災害外科* 59:840-843, 2010
16. 矢野浩規, 福井雅士, 安楽邦明, 中野基, 今泉敏史, 高橋国宏, 皆川知広, 平野明喜: 当科における30歳以上の顎骨骨切り症例の検討 *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 26: 262-268, 2010
17. 矢野浩規, 平野明喜: 形成外科の治療指針 update 2010 頭頸部疾患 眼球突出 *形成外科* 53 増: S126-S127, 2010
18. 秋田定伯: 自家脂肪組織由来幹細胞を用いた放射線障害の再生医療 *放射線事故医療研究会会報* 21: 6, 2010

B-b

1. 秋田定伯: 創傷治癒・創傷治療における“幹細胞”の意義と役割 創傷 1: 13-19, 2010
2. 秋田定伯: トピック bFGF 製剤を用いた局所療法 救急医学【特集 熱傷治療ガイド 2010】34: 4: 439-440, 2010

B-c

1. 平野明喜: 基本的な臨床診断の手順と方法; 顔面骨骨折の治療と実際 平野明喜(編), p2-7, 文光堂, 東京, 2010
2. 平野明喜: 眼窩壁への経皮アプローチ: 睫毛下切開と内眼角切開のコツ; 顔面骨骨折の治療と実際 平野明喜編, p103-106, 文光堂, 東京, 2010
3. 矢野浩規, 平野明喜: missing rectus syndrome (筋絞扼を伴う眼窩底線状骨折)の治療; 顔面骨骨折の治療と実際 平野明喜編, p107-111, 文光堂, 東京, 2010
4. 西村剛三, 平野明喜: 陳旧性下顎骨骨折の治療; 顔面骨骨折の治療と実際 平野明喜編, p307-312, 文光堂, 東京, 2010
5. 田中克己, 村上隆一. 遊離皮弁術 「足・足趾からの遊離皮弁」使える皮弁術—適応から挙上法まで— 下巻, 百束比古・中島龍夫(編), pp87-94, 全日本病院出版会, 東京, 2010
6. 田中克己, 平野明喜: 代表的皮弁とその挙上法 「31. 内側足底皮弁」形成外科診療プラクティス, 皮弁外科・マイクロスージャリーの実践, 百束比古・一瀬正治・保阪善昭編, pp123-126, 文光堂, 東京, 2010
7. 秋田定伯: 熱傷 デキる医師の紹介・逆紹介 治療 92: 1207-1212, 2010
8. 藤岡正樹, 吉本浩: 創傷治療 こんなときどうする? 適切な評価と処置のコツ 創傷治癒に関する疑問あれこれ レジデントノート, 12(7): 1230-1234, 2010
9. 遠藤淑恵, 吉本浩: 創傷治療 こんなときどうする? 適切な評価と処置のコツ ドレッシング・縫合後の処置 レジデントノート, 12(7): 1223-1229, 2010

B-d

1. 秋田定伯: 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 HIV 関連 Lipodystrophy の克服に向けて (H20-エイズ一般-001) 平成 21 年度 総括・分担研究成果報告書 総括研究報告 pp7-16, 総 53 頁, 2010
2. 秋田定伯: 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 プリオン病 2 次感染に対する現実的滅菌法の開発研究 5%次亜塩素酸ナトリウム 1N 水酸化ナトリウムで消毒後に超音波洗浄の有無による鋭敏な器具の形状変化について 平成 21 年度 総括・分担研究報告書 分担研究報告 pp22-25, 総 39 頁, 2010
3. 秋田定伯 厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究 輸血液の需要に関する研究 平成 21 年度 研究報告書 分担研究報告 pp25-46, 総 67 頁, 2010

学会発表数

A - a	A - b		B - a	B - b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
9	9	2	6	2	15

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
平野明喜・教授	長崎県医師会	理事
平野明喜・教授	日本学術振興会	科学研究費委員会委員
平野明喜・教授	日本形成外科学会	評議員
平野明喜・教授	日本形成外科学会	専門医認定委員会委員
平野明喜・教授	日本形成外科学会	制度検討委員会委員
平野明喜・教授	日本形成外科学会九州支部	副支部長
平野明喜・教授	日本頭蓋顎顔面外科学会	監事・評議員
平野明喜・教授	日本創傷外科学会	理事
平野明喜・教授	日本形成外科手術手技学会	理事
平野明喜・教授	日本創傷外科学会	専門医委員会委員長
平野明喜・教授	日本口蓋裂学会	評議員

平野明喜・教授	日本熱傷学会	評議員
平野明喜・教授	日本頭蓋底外科学会	評議員
平野明喜・教授	日本再生医療学会	評議員
平野明喜・教授	日本褥瘡学会	評議員
平野明喜・教授	長崎大学医師会	理事
平野明喜・教授	長崎県医師会	理事
田中克己・准教授	日本形成外科学会専門医試験問題作成委員会委員	日本形成外科学会
田中克己・准教授	日本形成外科学会企画調査委員会委員	日本形成外科学会
田中克己・准教授	日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会	日本形成外科学会
田中克己・准教授	代議員	日本手外科学会
田中克己・准教授	日本手外科学会教育研修委員会委員	日本手外科学会
田中克己・准教授	日本手外科学会専門医試験委員会委員	日本手外科学会
田中克己・准教授	評議員	日本褥瘡学会
田中克己・准教授	日本褥瘡学会学術教育委員会委員	日本褥瘡学会
田中克己・准教授	日本褥瘡学会実態調査委員会委員	日本褥瘡学会
田中克己・准教授	評議員	日本熱傷学会
田中克己・准教授	日本熱傷学会専門医委員会委員	日本熱傷学会
田中克己・准教授	日本熱傷学会地方会連絡委員	日本熱傷学会
田中克己・准教授	評議員	日本マイクロサージャリー学会
田中克己・准教授	評議員	日本頭蓋顎顔面外科学会
田中克己・准教授	評議員	日本皮膚悪性腫瘍学会
田中克己・准教授	編集委員会委員	日本創傷外科学会
田中克己・准教授	委員	長崎県労災保険指導委員会
田中克己・准教授	非常勤講師	福岡県看護協会皮膚・排泄ケア教育課程
矢野浩規・講師	評議員・学会誌編集委員	日本形成外科学会
矢野浩規・講師	ガイドライン作成委員	日本頭蓋顎顔面外科学会
秋田定伯・助教	評議員	日本形成外科学会
秋田定伯・助教	学術委員会 委員	日本形成外科学会
秋田定伯・助教	企画調査委員会 委員	日本形成外科学会
秋田定伯・助教	評議員	日本創傷治癒学会
秋田定伯・助教	ガイドライン作成ワーキング 委員	日本創傷治癒学会
秋田定伯・助教	国際委員会 委員	日本創傷治癒学会
秋田定伯・助教	ガイドライン作成委員会 委員	日本創傷外科学会
秋田定伯・助教	ガイドライン(ケロイド、肥厚性瘢痕)統括委員長	日本創傷外科学会
秋田定伯・助教	編集委員会委員	日本創傷外科学会
秋田定伯・助教	プログラム委員会 委員	第19回日本形成外科学会基礎学術集会
秋田定伯・助教	Editorial board member	Journal of Wound Technology
秋田定伯・助教	Section editor (case report)	Journal ePlasty
秋田定伯・助教	Editorial board member	Wound Repair and Regeneration
秋田定伯・助教	Publication committee member	Wound Repair and Regeneration

秋田定伯・助教	Editorial board member	Wounds
秋田定伯・助教	客員教授	サントペテルスブルク卒後教育医学アカデミー (ロシア共和国)
吉本 浩・助教	ガイドライン作成委員会 委員	日本創傷外科学会

### 競争的資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
平野明喜・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(B) 間葉系幹細胞と発生学を考慮した頭蓋顔面再生
秋田定伯・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(B) 国際放射線障害治療拠点形成に向けて
秋田定伯・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 間葉系幹細胞と発生学を考慮した頭蓋顔面再生
秋田定伯・助教	厚生労働省	代表	HIV 関連 Lipodystrophy の克服に向けて
秋田定伯・助教	厚生労働省	分担	献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究
秋田定伯・助教	厚生労働省	分担	難治性血管腫・血管奇形についての調査研究
秋田定伯・助教	厚生労働省	分担	HIV/HCV 重複感染血勇秒患者の長期療養に関する患者参加型研究(指定)
秋田定伯・助教	受託研究(H22-13)	代表	未利用食品を勇呼応活用した生体昨日活性素材の機能性の検証
秋田定伯・助教	受託研究(h22-16)	代表	ヌードラットを用いた人工真皮と分層植皮の安全性・有効性の前臨床検討
吉本 浩・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 間葉系幹細胞と発生学を考慮した頭蓋顔面再生
吉本 浩・助教	厚生労働省	分担	HIV 関連 Lipodystrophy の克服に向けて

### 特 許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
秋田定伯・助教	TRANSGENIC MOUSE MODEL FOR PITUITARY DISORDERS ASSOCIATED WITH LIF OVER-EXPRESSION AND/OR GH UNDEREXPRESSION AND ITS USE FOR TESTING THERAPEUTIC DRUGS FOR THE CONDITIONS(US Patent No. 5,824,838; Europe Patent No. 0 914 419 B1)	US: 05/09/1996  Europe: 04/29/1997	US: 10/20/1998  Europe: until 06/30/2004	US: until 05/09/2016 Europe: until 04/29/2017
秋田定伯・助教	間葉系幹細胞の培養方法および間葉系幹細胞を用いてなる培養臓器	2003-199191	2005-34030	

## その他

### 新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
秋田定伯・助教	長崎年医師会報（都市医師会だより）	長崎県医師会報	2010年 第779号 1248～49	先進医療への道のりから長崎で実現する再生医療目指して
秋田定伯・助教	客員教授の称号付与	長崎大学病院 website、長崎 大学医歯薬学 総合研究科 website、長崎 大学グローバル COEプログラム「放射線 健康リスク制御 国際戦略拠点」	2010年 11月18日	サンクトペテルブルク卒後教育医学アカデミー（ロシア共和国）から客員教授称号を付与
秋田定伯・助教	新聞掲載	長崎新聞	2010年 12月7日	血管奇形に理解を 治療法などを紹介

### 特筆すべき事項

サンクトペテルブルク卒後教育医学アカデミーから客員教授の称号（秋田定伯・助教）

同アカデミーは、2010年6月に125周年を迎えたサンクトペテルブルク随一の複合卒後教育医学研究施設で、長崎大学とは2008年にグローバルCOEプログラム遂行の為に学术交流協定が結ばれています。

秋田助教は、長崎大学と姉妹校である同アカデミーとの間の長年の学术交流及び協力関係の構築に貢献し今後の両校の発展に寄与するとして、客員教授としての称号が贈られたものです。特に、形成外科的観点から創傷治癒、再生医療など広範な内容で2010年11月から卒後医師への教育講演を行っており、今後も定期的な講演、診療交流に当たる予定です。なお、授章式は同日、オタリ・フルツロワ学長指揮のもと、同アカデミーにおいて行われました。